

5 膠原病の皮膚病変の治療トピックス

Topics of therapy for skin lesions in collagen diseases

茂木精一郎

MOTEGI Sei-ichiro

群馬大学大学院医学系研究科皮膚科学講師

Summary

膠原病(全身性強皮症や全身性エリテマトーデスなど)の皮膚病変は、診断や治療効果判定の重要な指標となる症状であり、皮膚科医の果たす役割は大きい。さまざまな皮膚病変を見逃さずに正しく評価することによって、早期診断・早期治療が可能となる。新たな治療薬であるエンドセリン受容体拮抗薬とヒドロキシクロロキンは、これまでに難治であった膠原病の皮膚症状(強皮症の手指潰瘍やエリテマトーデスの皮膚症状)に対して有用であるが、副作用には注意を要する。また、強皮症の末梢循環障害に対するボツリヌス毒素治療の効果が今後期待される。

エンドセリン受容体拮抗薬

エンドセリン受容体拮抗薬であるボセンタン水和物は、「全身性強皮症における手指潰瘍の発症抑制」に対して保険適用となった。新たな手指潰瘍の発症予防や潰瘍の治療効果が期待できる。副作用として肝機能障害に注意する。

ヒドロキシクロロキン

ヒドロキシクロロキン硫酸塩は、皮膚エリテマトーデスや全身性エリテマトーデスの皮膚症状に対する標準治療薬であり、本邦では2015年7月に適応承認を受けた。副作用として眼合併症(とくに網膜病変)の出現に注意を要する。

KEY WORDS

全身性強皮症(SSc)／全身性エリテマトーデス(SLE)／手指潰瘍／エンドセリン受容体拮抗薬／ボツリヌス毒素／ヒドロキシクロロキン